

14 低学年体育の検証

(1) 研究のねらい

「体育の合併授業における個別化・集団化と教師の役割・分担」

低学年の体育は、各種の運動を遊戯として取り扱い、遊びの中から調整力を身につけ、各種運動に役立つからだづくりをめざしている。こうした活動を展開するには、集団化による自己調整と、活動力に応じて個別化の取り扱いができる合併授業が考えられる。

そのための研究のねらいを具体的にあげると、次のようになる。

- ア 2～3学級を合併し、自己調整をうながしながら、3つの集団（活発、普通、不活発）に再編成し、程度別基準を確かめる。
- イ 教授過程の各段階での確かめにより、教師の役割・分担のあり方をとらえる。

(2) 1年題材とその取り扱い

題材 器械運動（マット）「前まわり」
ダンス「鳥になって」

器械運動（マット）

横まわりにつづいて取り扱う新教材である。

一般に技能差の少ない1年生の中で器械運動は、できる、できないということがはっきりでくるので、個人差がよくみられる運動領域である。

前まわりは、手、足、からだ、頭の協応動作と回転感覚が要求されるので、技能差はもとより、恐怖心をもたれることがある。それで教授過程のある段階で3つの集団に分け、個別化の配慮をする。そのため各教師の特性により、分業・協業し、ともに主体性を発揮するように努める。

ダンス

この学年の子どもはダンスを好み、鳥になってとんだり、湖水を泳いだりする物語りの「すじ」をグループでづくり、自我を忘れて表現する相手になりきることができる。しかし、表現の動きに差異があるので、協力し合った表現になるよう、グループ編成についてはじゅうぶんに配慮する。

動きには、リズムカルが要求されるので、ピアノ伴奏を聞き分け、それに合わせて表現ダンスに変化をもたせるようにする。そのため各教師は、ピアノ伴奏、個人表現、まとまりといった役割・分担をもつことにする。

(3) 題材構成

① 目標

項目	ダンス（鳥になって）	前 回 り
技能・体力	1, 自分が鳥になったつもりで鳥の動きを表現し、グループで「すじ」に従って模倣することができる。 2, 走、跳、屈、伸を主とし、速度を変えらることなどによって調整力をやしなう。	1, 腕で体重を支え背を丸くして、なめらかにまっすぐに前回りができる。 2, 調整力を身につけ腹筋や背筋を強める。
態度	1, 鳥の動きをくふうし、進んで表現できる。 2, 友だちと仲よく表現し、よい点を認め合うことができる。	1, まじめに練習し、できるまでやろうとする態度を身につける。 2, 友だちの運動をよく見て、助け合って練習する態度を身につける。
健康・安全	1, しょうとつしないように場所をとり、走ったりとんだりすることができる。 2, 運動後の清潔につとめ服装もきちんとすることができる。	1, 前の人をよく見て、ぶつからないようにする。 2, 手をよく洗うようにする。